

資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応

・2024年5月20日に開示しました、中期経営計画における「資本コストや株価を意識した経営」について、以下の更新を行いました。

資本コストの再設定

- ・ 長期金利の上昇等を踏まえ、資本コストを再設定。
当該資本コストを超えるROEの実現を目指す。

BSマネジメント 方針の導入

- ・ ROE向上のため、最適なBSの姿を目指していくBSマネジメント方針を導入。
- ・ 従来の配当性向による配当に代えて、BSマネジメントに基づく株主還元を実施。

◎CAPMによる株主資本コストの推計

金融市場環境の変化を踏まえ
株主資本コストを約9.0%と認識します

リスク フリーレート	+	β値 (市場感応度)	×	リスクプレミアム	=	株主資本コスト (参考値)
2.2%		0.98～1.16		6.0%		8.1%～9.2%
長期国債利回り						

当該資本コストを超えるROEの実現
を目指します

- ・ROE向上のため、BSマネジメント方針を設定し、投下資本の最小化を追求する。
- ・26年3月期の期末配当は従来の配当性向にとらわれず、BSマネジメントに基づく配当を予定する。



基本的な考え方

- ・ PBR 1 倍割れ解消に向けて、ROEを向上すべく「リターンの最大化」だけではなく「投下資本の最小化」も追求し両者をバランスさせる。
- ・ リターン最大化のための投資を行った上で余剰となる資金は株主還元を行う (ただし、単年ではなく中計期間で検討)。

配分原資

- ・ 営業CFだけではなく、余剰現預金も含めて配分のもとの原資とする。
- ・ 資金調達が必要な際には、調達コスト低減のため借入も活用。
- ・ 但し、財務規律を守るため、DEレシオなどを指標として管理していく。

株主還元

- ・ 従来の配当性向にとらわれず、BSマネジメントの手段として株主還元を実施。
- ・ 株主還元の手段としては配当に加えて、自己株式取得を柔軟に行う。